

蚕糸絹文化振興対策事業補助金申請等諸様式

様式第 1 - 1 号	提携グループ支援事業実施計画の承認及び補助金申請書 (要領第 3 の 2)	ページ 3
様式第 1 - 2 号	提携グループ支援事業実施計画の承認及び補助金申請書 (統括グループ) (要領第 3 の 2)	6
様式第 1 - 3 号	県協議会等推進事業 (県協議会推進事業) 実施計画の承認及び補助金申請書 (要領第 3 の 3 の (1))	7
様式第 1 - 4 号	県協議会等推進事業 (養蚕技術指導事業) 実施計画の承認及び補助金申請書 (要領第 3 の 3 の (2))	9
様式第 1 - 5 号	蚕糸絹文化普及奨励等支援事業実施計画の承認及び補助金申請書 (要領第 3 の 4)	1 3
様式第 1 - 6 号	蚕糸絹生産技術等支援事業 (蚕種生産支援事業) 実施計画の承認及び補助金 申請書 (要領第 3 の 5 の (1))	1 5
様式第 1 - 7 号	蚕糸絹生産技術等支援事業 (稚蚕安定供給事業) 実施計画の承認及び補助金 申請書 (要領第 3 の 5 の (2))	1 8
様式第 1 - 8 号	蚕糸絹生産技術等支援事業 (特殊生糸生産安定化事業) 実施計画の承認及び 補助金申請書 (要領第 3 の 5 の (3))	2 1
様式第 1 - 9 号	養蚕経営支援事業 (新規養蚕参入者研修事業) 実施計画の承認及び補助金申 請書 (要領第 3 の 6 の (1))	2 5
様式第 1 - 1 0 号	養蚕経営支援事業 (養蚕ヘルパー雇用支援事業) 実施計画の承認及び補助金 申請書 (要領第 3 の 6 の (2))	3 0
様式第 1 - 1 1 号	養蚕経営支援事業 (養蚕ヘルパー雇用支援事業) に係る集計表 (計画) (要領第 3 の 6 の (2))	3 3
様式第 1 - 1 2 号	条件整備事業 (蚕種関係支援事業) 実施計画の承認及び補助金申請書 (要領第 3 の 7 の (1))	3 4
様式第 1 - 1 3 号	条件整備事業 (養蚕関係支援事業) 実施計画の承認及び補助金申請書 (要領第 3 の 7 の (2))	3 6
様式第 1 - 1 4 号	条件整備事業 (製糸等関係支援事業) 実施計画の承認及び補助金申請書 (要領第 3 の 7 の (3))	3 9

様式第 1 - 1 5 号	繭生産緊急体制強化事業（新規養蚕参入者支援事業（個人））実施計画の承認及び補助金申請書（要領附則 2）	4 1
様式第 1 - 1 6 号	繭生産緊急体制強化事業（新規養蚕参入者支援事業（法人））実施計画の承認及び補助金申請書（要領附則 2）	4 6
様式第 1 - 1 7 号	補助金申請書及び実績報告書提出時の経由文書様式	5 0
様式第 2 号	事業補助金の前金払請求書	5 1
様式第 3 号	事業の変更承認申請書	5 2
様式第 4 - 1 号	提携グループ支援事業実績報告書	5 3
様式第 4 - 2 号	提携グループ支援事業実績報告書（統括グループ）	5 5
様式第 4 - 3 号	県協議会推進事業実績報告書	5 7
様式第 4 - 4 号	養蚕技術指導事業実績報告書	6 0
様式第 4 - 5 号	蚕糸絹文化普及奨励等支援事業実績報告書	6 4
様式第 4 - 6 号	蚕種生産支援事業実績報告書	6 6
様式第 4 - 7 号	稚蚕安定供給事業実績報告書	6 9
様式第 4 - 8 号	特殊生糸生産安定化事業実績報告書	7 2
様式第 4 - 9 号	新規養蚕参入者研修事業実績報告書	7 5
様式第 4 - 1 0 号	養蚕ヘルパー雇用支援事業実績報告書	7 8
様式第 4 - 1 1 号	養蚕ヘルパー雇用支援事業に係る集計表（実績）	8 1
様式第 4 - 1 2 号	条件整備事業実績報告書（各事業共通）	8 3
様式第 4 - 1 3 号	繭生産緊急体制強化事業（新規養蚕参入者支援事業（個人））実績報告書	8 5
様式第 4 - 1 4 号	繭生産緊急体制強化事業（新規養蚕参入者支援事業（法人））実績報告書	9 0
様式第 5 号	事業完了確認調査（機械・施設事業を実施した場合）（要領第 6）	9 5
様式第 6 号	事業実施状況報告書（機械・施設事業を実施した場合）（要領第 9）	9 6

平成 年度提携グループ支援事業実施計画の承認及び補助金申請書
(要領第3の2)

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

事業実施主体
住 所
名 称
代表者 印

蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第4の1に基づき、提携グループ支援事業実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請します。

記

- 1 事業の目的
- 2 提携グループの構成員及び役割(平成 年度)
別紙「構成員一覧表」のとおり

3 提携グループの活動計画

(1) 会議・打合せ・展示会の計画

内 容	実施予定時期	備考
川上・川下との交流会 純国産絹製品作りのための関係者との情報交換 純国産絹製品の販売促進のための展示会等		

(2) 生糸、真綿及び絹製品等の生産・販売計画

製品名	販売計画

(3) 原料繭の生産計画

蚕期	蚕品種名	繭生産数量 (kg)	生産農家戸数 (戸)	kg当たり繭単価 (税込)
春蚕期				
小計				
初秋蚕期				
小計				
晩秋蚕期				
小計				
合計				

4 事業費の内容及び経費の配分

区分	事業に要 する経費	負担区分(円)		備考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	
繭代				
春繭				
初秋繭				
晩秋繭				
計				

5 事務担当者名及び連絡先(電話、FAX、メールアドレス)

6 添付書類

(1) 構成員一覧表

(2) 繭代の取り決めに関する書類

(別紙) 構成員一覧表

(例)

【蚕種製造】

株式会社、株式会社

【関係農協：繭生産指導、集荷】

農協、農協

【養蚕農家：繭生産】

農協管内(戸)

、 、 、

農協管内(戸)

、 、 、

【生糸生産】

株式会社

【絹織物製造】

株式会社

【染加工】

株式会社

【全体統括】

株式会社

別紙様式第 1 - 2 号

平成 年度提携グループ支援事業実施計画の承認及び補助金申請書（統括グループ）
（要領第 3 の 2）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭

殿

事業実施主体（統括グループ）

住 所

名 称

代表者

印

各部会から、別紙のとおり、提携グループ支援事業実施計画の承認及び補助金申請書の提出があったので、蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第 4 の 1 に基づき、提携グループ支援事業実施計画書を下記の通り取りまとめたので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請します。

記

1 原料繭の生産計画

部会名	春蚕期 (kg)	初秋蚕期 (kg)	晩秋蚕期 (kg)	計 (kg)
部会				
提携グループ				
部会				
合計				

2 事業費の内容及び経費の配分

区分	事業に要 する経費	負担区分（円）		備考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	
繭代 部会 グループ 部会				
計				

3 添付書類

各部会の計画書（別紙様式第 1 - 1 号を準用）

平成 年度県協議会等推進事業（県協議会推進事業）実施計画の承認及び補助金申請書
（要領第 3 の 3 の（ 1 ））

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

事業実施主体
住 所
名 称
代表者 印

蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第 4 の 1 に基づき、県協議会等推進事業（県協議会推進事業）実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

（ 1 ）県協議会等の開催計画

会議の名称	開催時期 年 月	開催場所	会議の内容	参集範囲	参集員数 （名）	備考
計						

注）会議の名称の欄は、協議会開催、現地検討会等、県協議会で主催する会議名を記載する。

(2) 概況調査農家指導計画

指 導 計 画			備 考 (該 当 調 査 欄 に を 記 入)	
時 期	対 象 農 家 氏 名	指 導 内 容	養 蚕 経 営 調 査 (生 産 費 調 査)	養 蚕 概 況 調 査

(3) 推進事務費の内訳

経 費 項 目	金 額	積 算 内 訳	備 考

3 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に要 する経費	負 担 区 分 (円)			備 考
		大日本蚕糸会 補助金	その他 補助金	事業実施主体 負担金	
県協議会推進事業 (1) 協議会開催費 (2) 現地検討会費 (3) 概況調査農家指導費 (4) 中央会議等出席費 (5) 推進事務費					
計					

5 事務担当者氏名及び連絡先 (電話、FAX、eメールアドレス)

6 添付書類

- (1) 県推進協議会等の構成 (設立年月日、規約、構成員、代表者等の書類)
- (2) 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

平成〇〇年度県協議会等推進事業（養蚕技術指導事業）実施計画の承認及び補助金申請書
（実施要領第 3 の 3 の（ 2 ））

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会

会 頭 殿

事業実施主体

住 所

名 称

代表者

印

蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第 4 の 1 に基づき、県協議会等推進事業（養蚕技術指導事業）実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 事業実施主体の概要

名称	代表	所在地	技術員数	指導農家数

3 事業の内容

（ 1 ）稚蚕期安定飼育技術指導計画

蚕業技術員 氏 名	所 属 (農協名等)	蚕 期	飼育所名	指導 日数	対象地域	対象農家 戸数(戸)
	計					
	計					
合 計						

注) 蚕期区分は、原則として養蚕収繭量統計調査規則（昭和 4 6 年農林省令第 4 1 号）に基づいて行う都道府県別蚕期区分によること。以下同じ。

(2) 壯蚕期高品位繭生産技術指導計画

蚕業技術員 氏名	所属 (農協名等)	蚕期	指導地域	対象農家 戸数(戸)	指導 日数	備考
		(蚕期外)				
	計					
		(蚕期外)				
	計					
		(蚕期外)				
	計					
合計						

(3) 新規養蚕入者技術指導計画

蚕業技術員 氏名	所属 (農協名等)	指導時期	指導 日数	指導内容	対象農家名	備考
	計					
	計					
合計						

4 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に要 する経費	負 担 区 分(円)			備考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 補助金	その他 補助金	
養蚕技術指導事業 (1) 稚蚕期安定飼育技術指 導費 (2) 壮蚕期高品位繭生産技 術指導費 (3) 新規養蚕参入者技術指 導費					
計					

5 予定される事業の効果

新技術の導入・普及、研修等により、繭生産や繭質等に期待される効果（収繭量、解じょ率、選除繭歩合、養蚕技術の知識の向上等）を記述すること。

6 事務担当者氏名及び連絡先（電話、FAX、eメールアドレス）

7 添付書類

- (1) 養蚕技術員の履歴書
- (2) (別紙) 養蚕技術指導費の内訳(計画)
- (3) 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

(別紙) 養蚕技術指導費の内訳(計画)

技術員名	蚕期	稚蚕技術指導		壮蚕技術指導			新規参入者指導		合 計	
		日数	謝金	対象農 家戸数	日数	謝金	日数	謝金	日数	技術指 導謝金
	(蚕期外)									
	計									
	(蚕期外)									
	計									
	(蚕期外)									
	計									
合 計										

注) 1 補助率：定額 4,700 円/日(1/2相当定額)

- 2 移動時間を含んで、活動時間が5時間以上の場合は1日とする。
5時間未満の場合は0.5日とする。

平成 年度蚕糸絹文化普及奨励等支援事業実施計画の承認及び補助金申請書
(実施要領第 3 の 4)

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

事業実施主体
住 所
名 称
代表者 印

蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第 4 の 1 に基づき、蚕糸絹文化普及奨励等支援事業実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

- 1 事業の目的
- 2 事業の内容（事業概要、開催時期、開催場所、対象者など）
- 3 期待される事業効果等
- 4 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に要 する経費	負 担 区 分 (円)			備 考
		大日本蚕糸会 補助金	その他補助金	事業実施主体 負担金	
蚕糸絹文化普及奨励等支援事業 (1) 企画運営会議費 (2) 会場借料費 (3) 講師謝金等 (4) 報告書作成費 (5) 活動その他経費					
計					

5 事務担当者氏名及び連絡先（電話、FAX、eメールアドレス）

6 添付書類

（1）定款、寄付行為、規約等（既に提出済みの事業実施主体は除く。）

（2）事業実施に係る事業計画及び予算書

（3）活動に関する専門的知見及び施設を有していることを示す書面

（4）大日本蚕糸会が必要と認めるもの

別紙様式第 1 - 6 号

平成 年度蚕糸絹生産技術等支援事業（蚕種生産支援事業）実施計画の承認及び補助金申請書
（実施要領第 3 の 5 の（ 1 ））

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

事業実施主体
住 所
名 称
代表者 印

蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第 4 の 1 に基づき、蚕糸絹生産技術等支援事業（蚕種生産支援事業）実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 蚕種製造の概要

蚕期名	蚕品種名	原(原)種名	購入種繭量 (k g)	種繭購入先		備 考
				生産農家名	その他	
計						

3 事業の内容

(1) 蚕品種の製造計画 (年産)

	蚕品種名	製造数量(箱)			蚕品種 育成者
		当該年夏秋用	翌年春用	計	
普通蚕品種					
	計				
特殊蚕品種					
	計				
合 計					

注) 1 箱数量は、1箱20,000粒で換算すること。

2 普通蚕品種及び特殊蚕品種の分類は、要領の「事業に当たっての留意事項」6に掲げる蚕品種の分類とする。

(以下同じ。)

(2) 蚕品種の販売計画

	蚕品種名	販売先名 (農協、提携グループ名等)	販売数量 (箱)	(参考) 箱当たり平均 蚕種代金(円)
普通蚕品種				
	計			
特殊蚕品種				
	計			
合 計				

4 期待される事業効果等

5 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に要 する経費	負 担 区 分 (円)			備 考
		大日本蚕糸会 補助金	その他補助金	事業実施主体 負担金	
蚕種生産支援事業 (1) 普通蚕品種 (2) 特殊蚕品種					
計					

注) 補助率: 定額 (普通蚕品種 600 円 / 1 箱、特殊蚕品種 3,000 円 / 1 箱)

6 事務担当者氏名及び連絡先 (電話、FAX、eメールアドレス)

7 添付資料

大日本蚕糸会が必要と認めるもの

別紙様式第 1 - 7 号

平成 年度蚕糸絹生産技術等支援事業（稚蚕安定供給事業）実施計画の承認及び補助金申請書
（実施要領第 3 の 5 の（ 2 ））

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

事業実施主体
住 所
名 称
代表者 印

蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第 4 の 1 に基づき、蚕糸絹生産技術等支援事業（稚蚕安定供給事業）実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 稚蚕飼育所の概要

名称	代表	所在地	稚蚕飼育数量		
			1～2令	1～3令	計

3 事業の内容

（ 1 ）事業実施地区等の概要（平成 年度）

稚蚕飼育所名 （農家名）	構成市町村又は 構成農協名	養蚕農家戸数 （戸）	年間収繭量 （kg）	備 考
合計				

（注）当年度の見込みの概要を記入する。

(2) 稚蚕飼育計画

稚蚕飼育所名又は 受託農業者名		稚蚕飼育計画				備 考
		蚕 期	蚕品種名	掃立時期	掃立数量(箱)	
	2 令 飼 育	春蚕期				
		初秋蚕期				
		晩秋蚕期				
		計				
	3 令 飼 育	春蚕期				
		初秋蚕期				
		晩秋蚕期				
		計				

(注) 箱数量は、1箱 20,000粒で換算すること。以下同じ。

(3) 稚蚕配蚕計画

稚蚕飼育所名又は 受託農業者名		蚕 期	蚕品種名	配蚕時期	配蚕数量 (箱)	配蚕農家 戸数(戸)	備 考
〇〇〇〇	2 令 飼 育	春蚕期					
		初秋蚕期					
		晩秋蚕期					
		計					
〇〇〇〇	3 令 飼 育	春蚕期					
		初秋蚕期					
		晩秋蚕期					
		計					

(4) 繭出荷計画

	蚕 期	蚕品種名	出荷数量 (トン)	生産農家 戸数(戸)	出荷(予定)先	備考
2令飼育	春蚕期					
	初秋蚕期					
	晩秋蚕期					
	計					
3令飼育	春蚕期					
	初秋蚕期					
	晩秋蚕期					
	計					

4 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に要する経費	負 担 区 分(円)			備 考
		大日本蚕糸会補助金	その他補助金	事業実施主体負担金	
稚蚕安定供給事業 (1) 2令飼育 (2) 3令飼育					
計					

5 予定される事業の効果

6 事務担当者氏名及び連絡先(電話、FAX、eメールアドレス)

7 添付書類

- (1)(別紙)事業費の内容及び経費の積算(計画)
- (2) 稚蚕飼育経費の内訳明細
- (3) 稚蚕飼育業務委託契約書(写し)
- (4) 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

(別紙) 事業費の内容及び経費の積算(計画)

区 分	蚕 期	事業に要する経費(円)	補助対象経費		負 担 区 分(円)		
			単価 円/箱	箱数 (箱)	大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	その他
稚蚕飼育所名 又は 受託農業者名	2 令 飼 育	春蚕					
		初秋蚕					
		晩秋蚕					
		小計					
	3 令 飼 育	春蚕					
		初秋蚕					
		晩秋蚕					
		小計					
合 計							

注) 補助率: 定額(1~2令飼育3,500円/1箱、1~3令飼育7,000円/1箱)

平成 年度蚕糸絹生産技術等支援事業（特殊生糸生産安定化事業）実施計画の承認及び
補助金申請書（実施要領第 3 の 5 の（ 3 ））

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会

会 頭

殿

事業実施主体

住 所

名 称

代表者

印

蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第 4 の 1 に基づき、蚕糸絹生産技術等支援事業（特殊生糸生産安定化事業）実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

3 事業計画

(1) 原料繭の収納数量（前年度実績及び今年度計画）

(k g)

年度	蚕品種	春繭	初秋繭	晩秋繭	合 計	備 考
前年度 (2 9 年度)						
	計					
今年度 (3 0 年度)						
	計					

(2) 特殊生糸生産(前年度実績及び今年度計画)

前年度生産実績(平成29年3月(4月)~平成30年2月分)

蚕品種		生糸1類 (kg)	生糸2類 (kg)	生糸3類 (kg)	生糸4類 (kg)	合計 (kg)
	原料繭消費量					
	生糸生産量					
	原料繭消費量					
	生糸生産量					
合計	原料繭消費量					
	生糸生産量					

注) 平成29年度実績(平成28年度第2次分と平成29年度第1次分の合計を記入して下さい。)

今年度生産計画(平成30年3月~平成31年2月分)

蚕品種		生糸類 (kg)	生糸類 (kg)	その他 (kg)	合計 (kg)	備考
	原料繭消費量					
	生糸生産量					
	原料繭消費量					
	生糸生産量					
合計	原料繭消費量					
	生糸生産量					

注) 1 平成30年3月から平成31年2月までの繰糸計画に係る原料繭消費量と特殊生糸生産計画を記入して下さい。

2 その他の欄は、補助事業対象外の繭消費量及び生糸生産量を記入して下さい。

(3) 原料繭の需給及び特殊生糸生産量(前年度実績及び今年度計画)

	繭の需給(実績及び計画)			生糸生産量(実績及び計画)			
	繭受入量	繭消費量	原料繭 残量	生糸 類	生糸 類	その他 (対象外)	計
前年度 (29年度)							
今年度 (30年度)							

- 注) 1 前年度(29年度)の繭消費量と生糸生産量は、平成29年度実績(平成28年度第2次分と平成29年度第1次分の合計を記入して下さい。生糸2類、生糸3類及び生糸4類の生産量の合計を生糸 類の欄に、生糸1類の生産量を生糸 類の欄に記入して下さい。
前年度(29年度)の繭受入量は、平成28年度第2次分の原料繭の量と平成29年度の収納数量の合計を記入して下さい。
- 2 今年度(30年度)の計画は、平成30年3月から平成31年2月までの繰上計画に係る原料繭消費量と特殊生糸生産計画を記入して下さい。
その他の欄は、補助事業対象外の繭消費量及び生糸生産量を記入して下さい。

4 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に要 する経費	負 担 区 分(円)		備 考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	
特殊生糸生産安定化事業 (1) 生糸 類 (2) 生糸 類				
計				

注) 補助率: 定額(生糸 類 1,600円/生糸1kg、生糸 類 1,800円/生糸1kg)

5 特殊生糸販売計画

販売時期 (年月)	販 売 先	
	提携グループ名	生糸販売数量(kg)
計		

6 事務担当者氏名及び連絡先（電話、FAX、eメールアドレス）

7 添付書類

- (1) 生糸販売計画資料（写）
- (2) 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

注) 1 この事業は、提携グループで使用する生糸であって、差別化した生糸、特殊蚕品種の性状に応じた生糸、特殊な蚕品種の繭を原料にした生糸、煮繭後にも厳しい選繭をした繭を使用して繰糸した生糸、極細織度の生糸又は紬糸の製造を行ったものであること

2 平成30年度特殊生糸生産の生糸の分類は、次のとおりとする。

- ア 生糸類：普通蚕品種を利用して繰糸した生糸（生糸類に該当するものを除く。）
- イ 生糸類：特殊蚕品種を利用して繰糸した生糸、極細織度（14d以下）の生糸、格付け6A相当の生糸（生糸依頼成績に基づくものに限る。旧JAS検査の生糸格付表）

3 普通蚕品種及び特殊蚕品種の分類は、次のとおりとする。

- ア 普通蚕品種：春嶺×鐘月及び錦秋×鐘和等の旧蚕糸業法に基づいて交配形式が指定されていた蚕品種及び繭質（解じょ、繭糸織度、繭糸長等）や生糸量歩合がほぼ同程度と認められる「ぐんま200」など飼育量の多い蚕品種
- イ 特殊蚕品種：普通蚕品種とは異なる特性を有している蚕（繭糸織度に差異のあるもの、有色であるもの、特定用途のもの、在来品種（明治時代に飼育されていた蚕）及び在来品種を現代化した品種（在来品種に、現代の優れた原種を交雑して、生糸量歩合等を向上させた蚕）を含む。）

平成 年度養蚕経営支援事業（新規養蚕参入者研修事業）実施計画の承認及び補助金申請書
（要領第 3 の 6 の（1））

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

事業実施主体（研修生）
（法人の従業員は、法人名と代表者名・代表者印）
住 所
氏 名 印

蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第 4 の 1 に基づき、養蚕経営支援事業（新規養蚕参入者研修事業）実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 新規養蚕参入者研修受講者等の概要

個人の方は（1）に、法人の従業員の方は（2）に記載して下さい。

（1）新たに養蚕経営に取り組もうとする者（個人）の概要

研修受講者の概要

氏 名	年 齢	現在（又は直近）の職業	1 親等（両親）の職業 （何れかに○を付してください。）	
			農業者	その他

研修を受けることとした動機

（養蚕に関心をもったこと、研修を受けることとした動機について簡単に記述してください）

家族構成

氏 名	続柄	年 齢	職業等	養蚕就農後の協力（労働力）

農業経営概況等

区分	繭 (kg)	米 (kg)	その他 (椎茸、野菜、畜産等)			その他の生活基盤 農業以外の仕事等
生産量等 (申請時点)						

注) 野菜、畜産等については、野菜名、飼育頭数等具体的に記述してください。

桑園等経営規模(将来計画)

(単位: a)

将来計画	桑園		計	桑園整備計画の有無		水田	普通畑	その他 ()
		うち借地		有	無			
平成30年度	a	a	a	a		a	a	a
平成31年度								
平成32年度								

蚕期別繭生産数量(将来計画)

(単位: 箱・kg)

区分		春 蚕期	夏 蚕期	初秋 蚕期	晩秋 蚕期	晩々秋 蚕期	計	養蚕施設の整備 計画の有無(該当 年に○を付する)	
								有	無
平成30年	掃立箱数								
	繭生産量								
平成31年	掃立箱数								
	繭生産量								
平成32年	掃立箱数								
	繭生産量								

就農予定時期、就農希望地

[就農予定時期: 年]	
就農希望地	就農形態(自ら農業開始、親の継承、雇用就農等)

(2) 新たに養蚕経営に取り組みようとする法人及び研修生の概要

法人の概要

研修生の所属する法人の組織概要等（組織図、構成など。法人パンフ等で可。）

研修生の概要

氏名	年齢	研修生の雇用者	研修生と雇用者との間柄

研修を受けることになった動機

（養蚕研修を受けることになった動機について簡単に記述してください）

養蚕従事予定の関係者（研修生本人を含む。）

氏名	年齢	養蚕経営に関わる従事予定内容

桑園等経営規模（将来計画）

（単位：a）

年度計画	桑園		計	桑園整備計画の有無	
	a	うち借地 a		有 a	無
平成30年度	a	a	a	a	
平成31年度					
平成32年度					

蚕期別繭生産数量（将来計画）

（単位：箱・kg）

区分		春 蚕期	夏 蚕期	初秋 蚕期	晩秋 蚕期	晩々秋 蚕期	計	養蚕施設の整備 計画の有無(該当 年に○を付する)	
								有	無
平成30年	掃立箱数 繭生産量								
平成31年	掃立箱数 繭生産量								
平成32年	掃立箱数 繭生産量								

3 事業の内容

(1) 研修計画

研修期間 平成 年 月 日～平成 年 月 日(蚕期)

研修期間は、大日本蚕糸会から通知します。

(居住地からの移動日を含む研修の受入期間)

平成 年 月 日～平成 年 月 日

研修内容

研修内容は、受講する蚕期において、大日本蚕糸会蚕業技術研究所が定めます。

(2) 研修場所

一般財団法人 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所

(住所) 茨城県稲敷郡阿見町飯倉1053

4 事業費内訳

区 分	金 額	内 訳
新規養蚕参入者研修経費	円	
(1) 旅費		研修生の居住地の最寄り駅から研究所までの往復の旅費
(2) 宿泊費		研修期間中の宿泊費
(3) 交通費		研修期間中の宿泊場所から研究所までの往復の費用
(4) 食費		研修期間中の食事補助(定額: 1,770円/日)
(5) 保険料(傷害保険)		傷害保険加入に係る保険料(研修生自己負担)
計		

注) 旅費、宿泊費、交通費、日当の額は、新規養蚕参入者研修実施規則第7条第1項の面接後に、大日本蚕糸会で積算した額を記載する。

5 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に要する経費	負 担 区 分		備 考
		大日本蚕糸会補助金	研修生(又は法人)	
新規養蚕参入者研修事業	円			
(1) 旅費				
(2) 宿泊費				
(3) 交通費				
(4) 食費				
(5) 保険料(傷害保険)				
計				

6 期待される事業効果等

7 事務担当者の氏名、住所及び連絡先(電話、FAX、eメールアドレス)

8 添付書類

大日本蚕糸会が必要と認めるもの

平成 年度養蚕経営支援事業（養蚕ヘルパー雇用支援事業）実施計画の承認及び
補助金申請書（要領第 3 の 6 の（ 2 ））

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会

会 頭 殿

事業実施主体（養蚕農家）

住 所

氏 名

印

蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第 4 の 1 に基づき、養蚕経営支援事業（養蚕ヘルパー雇用支援事業）実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 養蚕農家の概要

家族構成

戸主及び従事者氏名	続柄	年齢	農業従事の内容	労働力

注）農業従事の内容には、養蚕、複合作物、その他（具体的に）の従事状況について、記述して下さい。

農業経営概要

（単位：a）

桑園				水田	普通畑	その他	計
完成	未成	計	うち借地				

経営内容等（平成 2 9 年）

区分	繭（kg）	米（kg）	その他（椎茸、野菜、畜産等）			備 考
生産量						

注）野菜、畜産等については、野菜名、飼育頭数等具体的に記述してください。

掃立量（今年度計画箱数及び前年度・前々年度の実績箱数）

（1箱20,000粒換算）

蚕 期	飼 育 箱 数			
	28年度実績	29年度実績	30年度計画	比較増減
春蚕期				年度計で比較
夏蚕期				
初秋蚕期				
晩秋蚕期				
晩々秋蚕期				
計				

3 事業の内容

養蚕ヘルパー雇用計画（内訳：別紙）

蚕 期	5 令期～収繭期		助成額（円）	備 考
	人 数	日数（延日数）		
春蚕期				
夏蚕期				
初秋蚕期				
晩秋蚕期				
晩々秋蚕期				
計				

注）補助率：1 / 2 以内（上限額 4,000 円 / 日）

4 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に要 する経費	負 担 区 分（円）		備 考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	
養蚕ヘルパー雇用支援事業				
計				

5 期待される事業効果等

6 事務担当者氏名、住所及び連絡先（電話、FAX、eメールアドレス）

7 添付書類

（1）（別紙）養蚕ヘルパー雇用計画内訳

（2）大日本蚕糸会が必要と認めるもの

(別紙) 養蚕ヘルパー雇用計画内訳

蚕期	5 令期～収穫期					主たる 養蚕作業
	ヘルパー氏名	雇用時期	雇用形態・換算日数			
			午前	午後	1日換算	
春蚕期						
夏蚕期						
初秋蚕期						
晩秋蚕期						
晩々秋蚕期						
計			日			

注) 蚕期別、ヘルパー別に整理してください。
 作業従事時間が3時間以上6時間未満は0.5日、6時間以上は1日として計算します。
 対象となる作業内容は、養蚕作業繁忙期(5令期～収穫期の間の1蚕期7日を上限)における採桑、給桑、上簇、収穫作業です。
 ヘルパーの助成対象者数は、1蚕期当たり3箱以上～6箱未満1人、6箱以上～10箱未満2人以内、10箱以上3人以内です。
 年間5蚕期を上限とし、実績報告は、ヘルパーへの支払い領収書(写)を添付して下さい。

平成 年度養蚕経営支援事業（養蚕ヘルパー雇用支援事業）に係る集計表（計画）

年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会

会 頭 殿

都・県名：

農協名：

担当者名：

印

担当者連絡先：

1 申請農家の掃立量の集計

（1箱20,000粒換算）

養蚕農家氏名	飼育箱数			
	〇〇年度実績	〇〇年度実績	〇〇年度計画	比較増減
1				
2				
3				
4				
5				
計				

2 養蚕ヘルパーに係る集計（計画）

養蚕農家氏名	養蚕ヘルパー雇用助成		助成額（円）	備考
	雇用人数	雇用延日数		
1				
2				
3				
4				
5				
計				

注) 補助率：1 / 2 以内（上限額 4,000 円 / 日）

平成 年度条件整備事業（蚕種関係支援事業）実施計画の承認及び補助金申請書
（実施要領第3の7の（1））

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

事業実施主体（蚕種製造業者）
住 所
名 称
代表者 印

蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第4の1に基づき、条件整備事業（蚕種関係支援事業）実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 蚕種製造業者の概要

蚕種製造所名 代表者名	蚕種製造・販売数量		稚蚕飼育		
	〇〇年 数量	蚕品種名	〇〇年 数量	販売先	
				農家	飼育所
	箱				

3 事業の内容

（1）機械・施設整備計画

単位：円

機械・施設等名称	機械・施設の内容 （構造・規模能力等）		員数	単価	事業費	整備時期	備考
	現 況	整備計画					
計							

- (2) 期待される事業効果等
 (機械・施設整備後の作業能率、品質改善、用途拡大等について、現況と目標を明記する。)

- (3) 実証 (設置) 場所

4 事業費の配分及び経費の配分

区 分	事業に要 する経費	負 担 区 分 (円)			備 考
		大日本蚕糸会 補助金	その他補助金	事業実施主体 負担金	
条件整備事業 蚕種関係支援事業					
計					

注) 補助率 : 1 / 2 以内

5 事務担当者氏名及び連絡先 (電話、 F A X、 e メールアドレス)

6 添付書類

- (1) 見積書等経費の明細が分かる資料
 (2) 設計図等
 (3) 事業実施場所の図面、写真等
 (4) 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

平成 年度条件整備事業（養蚕関係支援事業）実施計画の承認及び補助金申請書
（実施要領第 3 の 7 の（ 2 ））

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭

殿

事業実施主体（養蚕農家等）

住 所

氏 名

印

蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第 4 の 1 に基づき、条件整備事業（養蚕関係支援事業）実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 養蚕農家の概要

家族構成

戸主及び従事者氏名	続柄	年齢	農業従事の内容	労働力

注) 農業従事の内容には、養蚕、複合作物、その他（具体的に）の従事状況について、記述して下さい。

農業経営概要

（単位：a）

桑園				水田	普通畑	その他	計
完成	未成	計	うち借地				

経営内容等（平成 2 9 年）

区分	繭（kg）	米（kg）	その他（椎茸、野菜、畜産等）			備 考
生産量						

注) 野菜、畜産等については、野菜名、飼育頭数等具体的に記述してください。

3 事業の内容

(1) 桑園・機械・施設整備計画

単位：円

機械・施設等 名称	整備計画の内容 (構造・規模能力等)		員数	単価	事業費	整備時期	備考
	現況	整備計画					
計							

注) 整備計画の内容の現況の欄には、既存の整備状況を記載する。

(2) 期待される事業効果等

生産性の向上目標

区分	養蚕 従事 者数 (名)	桑園 面積 (ha)	飼育 回数 (回)	飼育 箱数 (箱)	収繭量 (t)	10a 収繭量 (kg)	10a 労働 時間 (hr)	上繭 1 kg 労働 時間 (hr)	収益性		
									粗収入 (千円)	所得 (千円)	所得率 (%)
現況 (30年)											
現況 (32年)											

技術体系

作業区分	使用機械施設		備考
	現況	改善後	

(3) 実証(設置)場所

(4) 支援体制(所在地、名称及び指導担当蚕業技術員氏名)及び当該事業への取組(調査計画等)

4 事業費の配分及び経費の配分

区 分	事業に要 する経費	負 担 区 分 (円)			備 考
		大日本蚕糸会 補助金	その他補助金	事業実施主体 負担金	
条件整備事業 養蚕関係支援事業					
計					

注) 補助率：農業者(個人) 2 / 3 以内、法人 1 / 2 以内

5 事務担当者氏名及び連絡先(電話、FAX、eメールアドレス)

6 添付書類

- (1) 見積書等経費の明細が分かる資料
- (2) 設計図等
- (3) 事業実施場所の図面、写真等
- (4) 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

平成 年度条件整備事業（製糸等関係支援事業）実施計画の承認及び補助金申請書
（実施要領第 3 の 7 の（ 3 ））

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

事業実施主体（生糸製造業者等）

住 所
名 称
代表者 印

蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第 4 の 1 に基づき、条件整備事業（製糸等関係支援事業）実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 製糸業者等の概要

製糸業者等名	前年 繭収納量 (生繭 kg)	前年 生糸製造数量 (kg)	前年 生糸販売数量 (kg)	当該年度 従事者数 (人)

3 事業の内容

(1) 機械・施設整備計画

単位：円

機械・施設等名称	機械・施設の内容 (構造・規模能力等)		員数	単価	事業費	整備時期	備考
	現 況	整備計画					
計							

(2) 期待される事業効果等

(機械・施設整備後の作業能率、品質改善、用途拡大等について、現況と目標を明記する。)

(3) 実証(設置)場所

4 事業費の配分及び経費の配分

区 分	事業に要 する経費	負 担 区 分(円)			備 考
		大日本蚕糸会 補助金	その他補助金	事業実施主体 負担金	
条件整備事業 製糸等関係支援事業					
計					

注) 補助率: 1 / 2 以内

5 事務担当者氏名及び連絡先(電話、FAX、eメールアドレス)

6 添付書類

- (1) 見積書等経費の明細が分かる資料
- (2) 設計図等
- (3) 事業実施場所の図面、写真等
- (4) 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

平成 年度繭生産緊急体制強化事業（新規養蚕参入者支援事業（個人））実施計画の
承認及び補助金申請書（要領附則 2）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

事業実施主体
住 所
氏 名 印

蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第 4 の 1 に基づき、繭生産緊急体制強化事業（新規養蚕参入者支援事業（個人））実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

（ 1 ）新規就農者（個人）の概要

氏 名	年 齢	現在（又は直近）の職業	1 親等（両親）の職業 （何れかに○を付してください。）	
			農業者	その他

家族構成

氏 名	続柄	年 齢	職業等	養蚕就農後の協力（労働力）

農業経営概要（単位：a）

桑園				水田	普通畑	その他	計
完成	未成	計	うち借地				

注）後継者は、記載不要（5の に記載してください。）

経営内容等

区分	繭 (kg)	米 (kg)	その他 (椎茸、野菜、畜産等)			その他の生活基盤 農業以外の仕事等
生産量等 (申請時点)						
生産量等 (3年後)						

注) 野菜、畜産等については、野菜名、飼育頭数等具体的に記述してください。

(2) 研修を受けることとした動機

(養蚕に関心をもったこと、研修を受けることとした動機について記述してください)

3 研修計画

(1) 養蚕関係

区分	研 修 蚕 期				
	春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期
研修年 平成 年	月 日 ~ 月 日	月 日 ~ 月 日	月 日 ~ 月 日	月 日 ~ 月 日	月 日 ~ 月 日
研修内容					

注) 蚕期区分については、春蚕期、夏蚕期、初秋蚕期、晩秋蚕期、晩々秋蚕期の5区分とします。

(2) 養蚕以外の研修計画

研修時期	研修 (希望) 内容

4 養蚕計画

(1) 桑園等経営規模 (将来計画又は目標)

(単位: a)

	水田	桑園		その他 (普通畑・樹園地など)	計	桑園整備計画の有無 (該当年に○を付する)	
			うち借地			有	無
平成 年							
平成 年							
平成 年							

(2) 蚕期別繭生産数量 (将来計画又は目標)

(単位: 箱・kg)

区分		春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期	計	養蚕施設の整備 計画の有無(該当 年に○を付する)
平成	年	掃立卵量 繭生産数量						
平成	年	掃立卵量 繭生産数量						
平成	年	掃立卵量 繭生産数量						

(3) 就農予定時期、就農希望地

[就農予定時期: 年]	
就農希望地	就農形態(自ら農業開始、親の継承、雇用就農・・・等)

5 研修生受入農家
研修生受入農家

研修受入先農家氏名	年齢	研修生と の間柄	住所
(指導者名)			

研修生受入農家の農業概要 (年)

a 桑園等経営規模

(単位: a)

水田	桑園				普通畑	樹園地	計
	完成	未成 (計画)	計	うち借地			

b 蚕期別繭生産数量

	春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期	計
掃立卵量(箱)						
繭生産数量(Kg)						

6 条件整備事業

養蚕関係の条件整備事業を併せて取り組む者にとっては、様式第1-12号に基づいて該当部分を記述する（重複する部分は省略してください）

この場合、事業全体に係る記述を行うよう留意してください。

7 事業費内訳

（単位：円）

事業区分	事業費	積算内訳
1 新規養蚕参入者支援事業		
研修生助成		新規研修生 研修生が指導農家の家族の場合 ×1/2 既存農業者が研修生の場合 ×1/2
研修生受入農家助成		研修生受入農家 研修生が家族の場合 ×1/2
桑園・蚕室借入助成		桑園貸借料、養蚕施設貸借料・・・定額
2 条件整備事業		桑園整備、育蚕施設整備
計		

8 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に要する経費	負担区分(円)		備 考
		大日本蚕糸会補助金	事業実施主体負担金	
1 新規養蚕参入者支援事業				
研修生助成				
研修生受入農家助成				
桑園、蚕室借入助成				
2 条件整備事業				
計				

9 期待される事業効果等

10 事務担当者の氏名、住所及び連絡先（電話、FAX、eメールアドレス）

1 1 添付書類

(1) 条件整備事業を申請する場合の添付資料

見積書等経費の明細が分かる資料

設計図等

事業実施場所の図面、写真等

(2) 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

平成 年度繭生産緊急体制強化事業（新規養蚕参入者支援事業（法人））実施計画の承認及び補助金申請書（要領附則 2）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

事業実施主体
住 所
名 称
代表者 印

蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第 4 の 1 に基づき、繭生産緊急体制強化事業（新規養蚕参入者支援事業（法人））実施計画書を下記の通り策定したので、承認及び補助金の交付決定をされたく申請いたします。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

(1) 新規事業者（法人）の概要

新規事業者（法人）の組織概要（組織図、構成など。法人パンフ等で可。）

養蚕関係者（予定を含む。）

氏名	年齢	主な従事内容

桑園等経営規模（将来計画）

（単位；a）

	水田	桑園	うち借地	その他（普通畑・樹園地など）	計	桑園整備計画の有無 （該当年に○を付する）	
						有	無
平成 年							
平成 年							
平成 年							

蚕期別繭生産数量（将来計画）

（単位：箱・kg）

区分		春 蚕期	夏 蚕期	初秋 蚕期	晩秋 蚕期	晩々秋 蚕期	計	養蚕施設の整備計画 の有無（該年に○ を付する）	
								有	無
平成	年	掃立卵量 繭生産量							
平成	年	掃立卵量 繭生産量							
平成	年	掃立卵量 繭生産量							

（２）研修生の雇用助成

研修生の概要

氏名	年齢	研修生の雇用者	研修生と雇用者との間柄

研修計画（養蚕期）

区分	研修蚕期				
	春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期
研修年 平成 年	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日
研修内容					

研修計画（養蚕期外）

区分	研修時期				
研修年 平成 年	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日
研修内容					

（３）研修生受入農家

研修生受入農家

研修受入先農家氏名	年齢	研修生又は 事業者との間柄	住所

研修生受入農家の農業概要（ 年）

a 桑園等経営規模

（単位：a）

水田	桑園				普通畑	樹園地	計
	完成	未成 (計画)	計	うち借地			

b 蚕期別繭生産数量

	春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期	計
掃立卵量（箱）						
繭生産数量（Kg）						

3 条件整備事業

条件整備事業を併せて取り組む者にあつては、様式第1 - 12号に基づき該当部分を記述する
（重複する部分は省略してください）

4 事業費内訳

区分	金額	内訳
1 新規養蚕参入者支援事業		
a 研修生雇用助成		研修生（1,500,000） 研修先が家族の場合 × 1/2 農業者 × 1/2
b 研修生受入農家助成		受入農家（120,000円 × 蚕期） 研修生が家族の場合 × 1/2
c 桑園、蚕室借入助成		桑園貸借料、養蚕施設貸借料・・・定額
2 条件整備事業		桑園、育蚕施設整備
計		

5 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に要 する経費	負 担 区 分 (円)		備 考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	
1 新規養蚕参入者支援事業 養蚕研修生の雇用助成 研修生受入農家助成 桑園・蚕室借入助成				
2 条件整備事業				
計				

6 期待される事業効果等

7 事務担当者の氏名、住所及び連絡先（電話、FAX、eメールアドレス）

8 添付書類

(1) 法人の概要

(2) 条件整備事業を申請する場合の添付資料

見積書等経費の明細が分かる資料

設計図等

事業実施場所の図面、写真等

(3) 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

蚕糸絹業提携グループ
又は
県活性化推進協議会
名 称
住 所
代表者

印

から、別紙のとおり、蚕糸絹文化振興対策事業（ 事業）実施計画書の承認及び補助金申請書の提出があったので、事業実施要領第 4 の 1 の に基づき実施計画書の承認及び補助金申請書を提出します。

1 経由区分

(1) 提携グループの代表者を經由する事業

要領第 3 の 6 の (1) の新規養蚕参入者研修事業及び (2) の養蚕ヘルパー雇用支援事業
要領第 7 の条件整備事業の (2) の養蚕関係支援事業のうち新規養蚕参入者に係る事業

(2) 事業実施主体が関係する県推進協議会等を經由する事業

要領第 3 の 5 の (2) の稚蚕安定供給事業
要領第 7 の条件整備事業の (2) の養蚕関係支援事業のうち養蚕農家等に係る事業

2 要領第 6 の実績報告及び要領第 9 に基づく事業実施状況報告書の提出についても準用して下さい。

別紙様式第2号

平成 年度蚕糸絹文化振興対策事業（ 事業）補助金の前金払請求書（各事業共通）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

事業実施主体
住 所
名 称
代表者 印

平成 年 月 日付け 第 号で交付決定通知のあった平成 年度蚕糸絹文化振興対策事業（ 事業）について、下記により金 円を前金払いによって交付されたく、蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第5の3の規定に基づき、請求いたします。

記

1 事業費の内容及び前金払請求額

区分	事業に要する経費	交付決定補助金 (A)	既受領額 (B)		今回請求額 (C)		残高 (A) - ((B) + (C))		事業完了予定年月日
			金額	出来高	金額	月日 まで予定 出来高	金額	月日 まで予定 出来高	
(事業項目を記述)	円	円	円	%	円	%	円	%	
計									

注) 区分欄は、別記様式第1の当該号の事業経費の配分の表の「区分」欄に記載された事項とする。

2 事務担当者の氏名、住所及び連絡先（電話、FAX、eメールアドレス）

(備考) 補助金振込先明細

金融機関・支店名	預金種別	口座番号	口座名(フリガナ)

預金通帳の写しを添付してください。

平成 年度蚕糸絹文化振興対策事業（ 事業）の変更承認申請書（各事業共通）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

事業実施主体
住 所
名 称
代表者 印

平成 年 月 日付け第 号により交付決定の通知のあった平成 年度蚕糸絹文化振興対策事業（ 事業）について、下記事由により事業を変更（内容及び経費の配分、中止、廃止）したいので、蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第4の4の規定に基づき、関係書類を添えて申請いたします。

記

1 変更の理由

2 （補助金申請書様式の該当部分の項目について、2段書きで記載する。）

（注）既に通知した補助金の交付決定にある「事業の内容」及び「経費の配分」と、変更後の「事業の内容」及び「経費の配分」とを容易に比較対照できるように変更部分を2段書きにし、変更前を括弧書きで、上段に記載する。

平成 年度提携グループ支援事業実績報告書

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

事業実施主体
住 所
名 称
代表者 印

平成 年度提携グループ支援事業を実施したので、蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第 10 の規定に基づき、下記のとおりその実績を報告いたします。

なお、併せて補助金額（精算額） 円の交付を請求いたします。

記

1 事業の目的

2 提携グループの活動実績

(1) 会議・打合せ・展示会の実績

内 容	実施時期 (年月日)	備考
川上・川下との交流会 純国産絹製品作りのための関係者との情報交換 純国産絹製品の販売促進のための展示会等		

(2) 生糸、真綿及び絹製品等の生産・販売実績

製品名	販売実績

(3) 原料繭の生産実績

蚕期	蚕品種名	繭生産数量 (kg)	生産農家戸数 (戸)	kg当たり繭単価 (税込)
春蚕期 小計				
初秋蚕期 小計				
晩秋蚕期 小計				
合計				

3 事業費の内容及び経費の配分

区分	事業に要した経費	負担区分(円)		備考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	
繭代 春繭 初秋繭 晩秋繭				
計				

4 収支決算

(1) 収入の部

単位：円

区分	予算額 (A)	決算額 (B)	比較 増()減 (B) - (A)	概算払 された額 (C)	差引補助金 精算額 (B) - (C)	備考
大日本蚕糸会補助金 その他						
計						

(2) 支出の部

区分	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増()減 (B) - (A)	備考
提携グループ支援事業費				

5 添付書類

- (1) 繭受渡確認書、繭代請求書及び繭代の振込証明書のコピー
- (2) 会議・打合せ・展示会の資料等のコピー
- (3) 加算金対象の提携グループにおいては、農家別(集落別)・蚕期別に繭代の分かる書類
- (4) 補助金振込先の預金通帳のコピー(銀行名、支店名、口座番号及び名義フリガナ)
- (5) 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

平成 年度提携グループ支援事業実績報告書（統括グループ）

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

事業実施主体（統括グループ）
住 所
名 称
代表者 印

各部会から、別紙のとおり、提携グループ支援事業実績報告書の提出があったので、蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第10の規定に基づき、提携グループ支援事業実績報告書を下記の通り取りまとめたので報告いたします。

なお、併せて補助金額（精算額） 円の交付を請求いたします。

記

1 原料繭の生産実績

部会名	春蚕期 (kg)	初秋蚕期 (kg)	晩秋蚕期 (kg)	計 (kg)
部会				
提携グループ				
部会				
合計				

2 事業費の内容及び経費の配分

区分	事業に要した経費	負担区分（円）		備考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	
繭代 部会 グループ 部会				
計				

3 収支決算

(1) 収入の部

単位：円

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	比較 増()減 (B) - (A)	概算払 された額 (C)	差引補助金 精算額 (B) - (C)	備考
大日本蚕糸会補助金 その他						
計						

(2) 支出の部

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増()減 (B) - (A)	備考
提携グループ支援事業費				

4 添付書類

各部会の実績報告書（別紙様式第4 - 1号を準用）

平成 年度県協議会等推進事業（県協議会推進事業）実績報告書

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

事業実施主体
名 称
住 所
代表者 印

平成 年度県協議会等推進事業（県協議会推進事業）を実施したので、蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第 6 の規定に基づき、下記のとおりその実績を報告いたします。

なお、併せて補助金額（精算額） 円の交付を請求いたします。

記

1 事業の内容

(1) 県協議会等の開催実績

会議の名称	開催時期 年 月	開催場所	会議の内容	参集範囲	参集員数 (名)	備考
計						

注) 会議の名称の欄は、協議会開催、現地検討会等、県協議会で主催する会議名を記載する。

(2) 概況調査農家指導実績

指 導 実 績			備 考 (該当調査欄に を記入)	
時期	対象農家 氏 名	指導内容	養蚕経営調査 (生産費調査)	養蚕概況 調査

(3) 推進事務費の内訳

経費項目	金額	積算内訳	備考

2 事業費の内容及び経費の配分

区分	事業に要した経費	負担区分(円)			備考
		大日本蚕糸会補助金	その他補助金	事業実施主体負担金	
県協議会推進事業 (1) 協議会開催費 (2) 現地検討会費 (3) 概況調査農家指導費 (4) 中央会議等出席費 (5) 推進事務費					
計					

3 収支決算

(1) 収入の部

単位：円

区分	決算額	予算額	比較増減	前金払額	今回請求額 (精算額)	備考
大日本蚕糸会補助金 その他						
合計						

(2) 支出の部

単位：円

区分	決算額	予算額	比較増減	備考
県協議会推進事業 (1) 協議会開催費 (2) 現地検討会費 (3) 概況調査農家指導費 (4) 中央会議等出席費 (5) 推進事務費				
その他				
計				

4 事務担当者氏名及び連絡先（電話、FAX、eメールアドレス）

5 添付資料

補助金に係る事業明細と当該支払い関係書類（経理帳簿の写し及び領収書の写し等）

（備考）補助金振込先明細

金融機関・支店名	預金種別	口座番号	口座名（フリガナ）

預金通帳の写しを添付してください。

平成〇〇年度県協議会等推進事業（養蚕技術指導事業）実績報告書

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会

会 頭 殿

事業実施主体

住 所

名 称

代表者

印

平成 年度県協議会等推進事業（養蚕技術指導事業）を実施したので、蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第6の規定に基づき、下記のとおりその実績を報告いたします。

なお、併せて補助金額（精算額） 円の交付を請求いたします。

記

1 事業の内容

(1) 稚蚕期安定飼育技術指導実績

蚕業技術員 氏 名	所 属 (農協名等)	蚕 期	飼育所名	指導 日数	対象地域	対象農家 戸数(戸)
	計					
	計					
合 計						

注) 蚕期区分は、原則として養蚕収繭量統計調査規則（昭和46年農林省令第41号）に基づいて行う都道府県別蚕期区分によること。以下同じ。

(2) 壯蚕期高品位繭生産技術指導実績

蚕業技術員 氏名	所属 (農協名等)	蚕期	指導地域	対象農家 戸数(戸)	指導 日数	備考
		(蚕期外)				
	計					
		(蚕期外)				
	計					
		(蚕期外)				
	計					
合計						

(3) 新規養蚕入者技術指導実績

蚕業技術員 氏名	所属 (農協名等)	指導時期	指導 日数	指導内容	対象農家名	備考
	計					
	計					
合計						

2 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に要 した経費	負 担 区 分(円)			備 考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体	その他	
養蚕技術指導事業 (1)稚蚕期安定飼育技 術指導費 (2)壮蚕期高品位繭生 産技術指導費 (3)新規養蚕参入者技 術指導費					
計					

3 収支決算

(1) 収入の部

単位：円

区 分	決 算 額	予 算 額	比 較 増 減	前金払額	今回請求額 (精算額)	備 考
大日本蚕糸会補助金 その他						
合計						

(2) 支出の部

単位：円

区 分	決 算 額	予 算 額	比 較 増 減	備 考
養蚕技術指導事業 (1)稚蚕期安定飼育技術指導費 (2)壮蚕期高品位繭生産技術指導費 (3)新規養蚕参入者技術指導費 その他				
計				

4 事務担当者氏名及び連絡先(電話、FAX、eメールアドレス)

7 添付書類

- (1)(別紙)養蚕技術指導経費の内訳(実績)
- (2)蚕期別活動記録(写)
- (3)大日本蚕糸会が必要と認めるもの

(備 考) 補助金振込先明細

金融機関・支店名	預金種別	口座番号	口座名(フリガナ)

預金通帳の写しを添付してください。

(別紙) 養蚕技術指導費の内訳 (実績)

技術員名	蚕期	稚蚕技術指導		壮蚕技術指導			新規参入者指導		合 計	
		日数	謝金	対象農 家戸数	日数	謝金	日数	謝金	日数	謝金
	(蚕期外)									
	計									
	(蚕期外)									
	計									
	(蚕期外)									
	計									
合 計										

注) 1 補助率：4,700 円 / 日 (1 / 2 相当定額)

2 移動時間を含んで、活動時間が 5 時間以上の場合は 1 日とする。

5 時間未満の場合は 0 . 5 日とする。

平成 年度蚕糸絹文化普及奨励等支援事業実績報告書

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会

会 頭 殿

事業実施主体

住 所

名 称

代表者

印

平成 年度蚕糸絹文化普及奨励等支援事業を実施したので、蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第6の規定に基づき、下記のとおりその実績を報告いたします。

なお、併せて補助金額（精算額） 円の交付を請求いたします。

記

1 事業の内容

2 事業費の内容及び経費の配分

区分	事業に要した経費	負担区分(円)			備考
		大日本蚕糸会補助金	その他補助金	事業実施主体負担金	
蚕糸絹文化普及奨励等支援事業 (1) 企画運営会議費 (2) 会場借料費 (3) 講師謝金等 (4) 報告書作成費 (5) 活動その他経費					
計					

3 収支決算

(1) 収入の部

単位：円

区 分	決 算 額	予 算 額	比較増減	前金払額	今回請求額 (精算額)	備 考
大日本蚕糸会補助金 その他						
合計						

(2) 支出の部

単位：円

区 分	決 算 額	予 算 額	比 較 増 減	備 考
蚕糸絹文化普及奨励等支援事業				
(1) 企画運営会議費				
(2) 会場借料費				
(3) 講師謝金等				
(4) 報告書作成費				
(5) 活動その他経費				
その他				
計				

4 事務担当者氏名及び連絡先（電話、FAX、eメールアドレス）

5 添付資料

- (1) 補助金に係る事業明細と当該支払い関係書類（経理帳簿の写し及び領収書の写し等）
- (2) 関係する報告書等
- (3) 大日本蚕糸会が必要と認める資料

(備考) 補助金振込先明細

金融機関・支店名	預 金 種 別	口 座 番 号	口 座 名 (フリガナ)

預金通帳の写しを添付してください。

平成 年度蚕糸絹生産技術等支援事業（蚕種生産支援事業）実績報告書

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会

会 頭 殿

事業実施主体

住 所

名 称

代表者

印

平成 年度蚕糸絹生産技術等支援事業（蚕種生産支援事業）を実施したので、蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第6の規定に基づき、下記のとおりその実績を報告いたします。

なお、併せて補助金額（精算額） 円の交付を請求いたします。

記

1 事業の内容

(1) 蚕品種の製造実績

	蚕品種名	製造数量(箱)			蚕品種 育成者
		当該年夏秋用	翌年春用	計	
普通蚕品種					
	計				
特殊蚕品種					
	計				
合 計					

注) 1 箱数量は、1箱20,000粒で換算すること。

2 普通蚕品種及び特殊蚕品種の分類は、要領の「事業に当たっての留意事項」6に掲げる蚕品種の分類とする。

(以下同じ。)

(2) 蚕品種の販売実績

	蚕品種名	販売先名 (農協、提携グループ名等)	販売数量 (箱)	(参考) 箱当たり平均 蚕種代金(円)
普通蚕品種				
	計			
特殊蚕品種				
	計			
合 計				

2 事業費の内容及び経費の配分

区分	事業に要 した経費	負 担 区 分(円)			備考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	その他	
蚕種生産支援事業 (1) 普通蚕品種 (2) 特殊蚕品種					
計					

注) 補助率: 定額 (普通蚕品種 600 円 / 1 箱、特殊蚕品種 3,000 円 / 1 箱)

3 収支決算

(1) 収入の部

単位: 円

区 分	決 算 額	予 算 額	比較増減	備 考
大日本蚕糸会補助金 その他				
合計				

(2) 支出の部

単位：円

区 分	決 算 額	予 算 額	比 較 増 減	備 考
蚕種生産支援事業 (1) 普通蚕品種 (2) 特殊蚕品種 その他				
計				

4 事務担当者名及び連絡先(電話、FAX、eメールアドレス)

5 添付書類

- (1) 普通蚕品種及び特殊蚕品種の販売数量がわかる資料(写)
- (2) 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

(備 考) 補助金振込先明細

金融機関・支店名	預 金 種 別	口 座 番 号	口 座 名 (フリガナ)

預金通帳の写しを添付してください。

平成 年度蚕糸絹生産技術等支援事業（稚蚕安定供給事業）実績報告書

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会

会 頭 殿

事業実施主体

住 所

名 称

代表者

印

平成 年度蚕糸絹生産技術等支援事業（稚蚕安定供給事業）を実施したので、蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第6の規定に基づき、下記のとおりその実績を報告いたします。

なお、併せて補助金額（精算額） 円の交付を請求いたします。

記

1 事業の内容

(1) 稚蚕飼育実績

稚蚕飼育所名又は 受託農業者名	稚蚕飼育実績				備 考
	蚕 期	蚕品種名	掃立時期	掃立数量（箱）	
2 令 飼 育	春蚕期				
	初秋蚕期				
	晩秋蚕期				
	計				
3 令 飼 育	春蚕期				
	初秋蚕期				
	晩秋蚕期				
	計				

注) 箱数量は、1箱20,000粒で換算すること。以下同じ。

(2) 稚蚕配蚕実績

稚蚕飼育所名又は 受託農業者名		蚕 期	蚕品種名	配蚕時期	配蚕数量 (箱)	配蚕農家 戸数(戸)	備 考
〇〇〇〇	2 令 飼 育	春蚕期					
		初秋蚕期					
		晩秋蚕期					
		計					
〇〇〇〇	3 令 飼 育	春蚕期					
		初秋蚕期					
		晩秋蚕期					
		計					

2 事業費の内容及び経費の配分

区分	事業に要 した経費	負 担 区 分(円)			備考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	その他	
稚蚕安定供給事業 (1) 2令飼育 (2) 3令飼育					
計					

3 収支決算

(1) 収入の部

単位：円

区 分	決 算 額	予 算 額	比 較 増 減	前金払額	今回請求額 (精算額)	備 考
大日本蚕糸会補助金 その他						
合計						

(2) 支出の部

単位：円

区 分	決 算 額	予 算 額	比 較 増 減	備 考
稚蚕安定供給事業 (1) 2令飼育 (2) 3令飼育				
その他				
計				

4 事務担当者氏名及び連絡先（電話、FAX、eメールアドレス）

5 添付書類

- (1) 稚蚕配蚕実績のわかる資料（写）
- (2) (別紙) 事業費の内容及び経費の積算（実績）
- (2) 稚蚕飼育経費の内訳明細（実績）
- (3) 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

(備考) 補助金振込先明細

金融機関・支店名	預金種別	口座番号	口座名(フリガナ)

預金通帳の写しを添付してください。

(別紙) 事業費の内容及び経費の積算（実績）

区分	蚕期	事業に要した 経費(円)	補助対象経費		負担区分(円)		
			単価 円/箱	箱数 (箱)	大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	その他
育所 飼育	2 令 飼 育	春蚕					
		初秋蚕					
		晩秋蚕					
		小計					
	3 令 飼 育	春蚕					
		初秋蚕					
		晩秋蚕					
		小計					
合計							

注) 補助率: 定額(1~2令飼育3,500円/1箱、1~3令飼育7,000円/1箱)

平成 年度蚕糸絹生産技術等支援事業（特殊生糸生産安定化事業）実績報告書

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会

会 頭 殿

事業実施主体

住 所

名 称

代表者

印

平成 年度蚕糸絹生産技術等支援事業（特殊生糸生産安定化事業）を実施しましたので、蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第 6 の規定に基づき、下記のとおりその実績を報告いたします。

なお、併せて補助金額（精算額） 円の交付を請求いたします。

記

1 事業の内容

(1) 平成 3 0 年度特殊生糸生産実績（平成 3 0 年 3 月～平成 3 1 年 2 月分）

蚕品種		生糸 類 (k g)	生糸 類 (k g)	その他 (k g)	合 計 (k g)	備 考
	原料繭消費量					
	生糸生産量					
	原料繭消費量					
	生糸生産量					
合 計	原料繭消費量					
	生糸生産量					

注) その他の欄は、補助事業対象外の繭消費量及び生糸生産量を記入して下さい。

(2) 原料繭の需給及び特殊生糸生産量(前年度実績及び今年度実績)

	繭の需給(実績)			生糸生産量(実績)			
	繭受入量	繭消費量	原料繭 残量	生糸 類	生糸 類	その他 (対象外)	計
前年度 (29年度)							
今年度 (30年度)							

- 注) 1 前年度(29年度)の繭消費量と生糸生産量は、平成29年度実績(平成28年度第2次分と平成29年度第1次分の合計を記入して下さい。生糸2類、生糸3類及び生糸4類の生産量の合計を生糸 類の欄に、生糸1類の生産量を生糸 類の欄に記入して下さい。
前年度(29年度)の繭受入量は、平成28年度第2次分の原料繭の量と平成29年度の収納数量の合計を記入して下さい。
- 2 今年度(30年度)の実績は、平成30年3月から平成31年2月までの繰上実績に係る原料繭消費量と特殊生糸生産実績を記入して下さい。
その他の欄は、補助事業対象外の繭消費量及び生糸生産量を記入して下さい。

2 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に要 した経費	負 担 区 分(円)		備 考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	
特殊生糸生産安定化事業 生糸 類 生糸 類				
計				

注) 補助率: 定額(生糸 類 1,600円/生糸1kg、生糸 類 1,800円/生糸1kg)

3 収支決算

(1) 収入の部

単位: 円

区 分	決 算 額	予 算 額	比 較 増 減	前 金 払 額	今 回 請 求 額 (精算額)	備 考
大日本蚕糸会補助金 その他						
合計						

(2) 支出の部

単位：円

区 分	決 算 額	予 算 額	比 較 増 減	備 考
特殊生糸生産安定化事業 生糸 類 生糸 類				
その他				
計				

4 特殊生糸販売実績

販売時期 (年月)	販 売 先	
	提携グループ名	生糸販売数量(kg)
計		

5 事務担当者氏名及び連絡先(電話、FAX、eメールアドレス)

6 添付書類

- (1) 特殊生糸生産に係る蚕品種毎の原料繭毎の生糸生産実績を示す資料(写)
- (2) 普通蚕品種を原料として高品質生糸を製造する際の、煮繭後にも厳しい選繭をした繭を使用し
て繰糸した生糸、極細織度の生糸又は細糸の製造を行ったものであることを示す資料
- (3) 特殊繭処理や特殊加工等により生糸を製造する具体例及びその内容を示す資料
- (4) 生糸販売実績資料(写)
- (5) 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

(備考) 補助金振込先明細

金融機関・支店名	預金種別	口座番号	口座名(フリガナ)

預金通帳の写しを添付してください。

平成 年度養蚕経営支援事業（新規養蚕参入者研修事業）実績報告書

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

事業実施主体（研修生）
（法人の従業員は、法人名と代表者名・代表者印）
住 所
氏 名 印

平成 年度養蚕経営支援事業（新規養蚕参入者研修事業）を実施しましたので、蚕糸絹文化振興
対策事業実施要領第 6 の規定に基づき、下記のとおりその実績を報告いたします。

なお、併せて補助金額（精算額） 円の交付を請求いたします。

記

1 事業の内容

(1) 研修実績

研修期間 平成 年 月 日～平成 年 月 日（ 蚕期）

研修内容 別紙「研修受講報告」

2 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に要 した経費	負 担 区 分		備 考
		大日本蚕糸会 補助金	研修生 (又は法人)	
新規養蚕参入者研修事業	円			
(1) 旅費				
(2) 宿泊費				
(3) 交通費				
(4) 食費				
(5) 保険料（傷害保険）				
計				

注) 旅費、宿泊費、交通費、日当の額は、大日本蚕糸会で積算した額を記載する。

3 事務担当者の氏名、住所及び連絡先（電話、FAX、eメールアドレス）

4 添付書類

(1) 別紙「研修受講報告」

(2) 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

(備考) 補助金振込先明細

金融機関・支店名	預金種別	口座番号	口座名(フリガナ)

預金通帳の写しを添付してください。

別紙「研修受講報告」

報告年月日：平成 年 月 日

1 研修生氏名：_____

研修期間 平成 年 月 日～平成 年 月 日（ 蚕期）

2 研修受講内容

（ 研修内容と習得した内容など）

3 就農に向けた今後の課題・必要と感じた技術

（ 養蚕作業の効率化（省力化、機械化など）のための改善、養蚕従事者の要員確保など）

4 就農に向けた準備状況

（ 養蚕経営に向けて、必要とする養蚕経営規模（桑園、蚕室、飼育規模、施設整備、複合作目）、経営目標設定、改善点など）

平成 年度養蚕経営支援事業（養蚕ヘルパー雇用支援事業）実績報告書

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会

会 頭 殿

事業実施主体（養蚕農家）

住 所

氏 名

印

平成 年度養蚕経営支援事業（養蚕ヘルパー雇用支援事業）を実施したので、蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第6の規定に基づき、下記のとおりその実績を報告します。

なお、併せて補助金額（精算額） 円の交付を請求します。

記

1 事業の内容

(1) 掃立量 (1箱20,000粒換算)

蚕 期	飼 育 箱 数			
	28年度実績	29年度実績	30年度実績	比較増減
春蚕期				年度計で比較
夏蚕期				
初秋蚕期				
晩秋蚕期				
晩々秋蚕期				
計				

(2) 養蚕ヘルパー雇用実績

蚕 期	5令期～収繭期		助成額(円)	備 考
	人 数	日数(延日数)		
春蚕期				
夏蚕期				
初秋蚕期				
晩秋蚕期				
晩々秋蚕期				
計				

注) 補助率: 1/2以内(上限額4,000円/日)

2 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に要 した経費	負 担 区 分 (円)		備 考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	
養蚕ヘルパー雇用支援事業				
計				

3 事業効果等

4 事務担当者氏名、住所及び連絡先（電話、FAX、eメールアドレス）

5 添付書類

- (1) (別紙) 養蚕ヘルパー雇用実績（作業記録）
- (2) 養蚕ヘルパー雇用賃金支払いに係る領収書（写）
- (3) 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

(別紙) 養蚕ヘルパー雇用実績(作業記録)

養蚕農家氏名：

ヘルパー氏名：

蚕期	年月日	作業従事時間		日換算	従事した作業内容	ヘルパーの 確認印
		： ~ ：	時間数			
計						

上記のとおり、平成30年度養蚕ヘルパーとして雇用したことを確認します。

(養蚕農家)

住所：

氏名：

印

- (注) 1 養蚕農家個々の雇用の実態を明確にするため、ヘルパー毎、蚕期別に整理して下さい。
 2 作業従事時間が3時間以上6時間未満は0.5日、6時間以上は1日として計算します。
 3 対象となる作業内容は、養蚕作業繁忙期(5令期~収繭期の間の1蚕期7日を上限)における採桑、給桑、上簇、収繭作業です。
 4 ヘルパーの助成対象者数は、1蚕期当たり3箱以上~6箱未満1人、6箱以上~10箱未満2人以内、10箱以上3人以内です。
 5 年間5蚕期を上限とし、実績報告は、ヘルパーへの支払い領収書(写)を添付して下さい。

平成 年度養蚕経営支援事業（養蚕ヘルパー雇用支援事業）に係る集計表（実績）

一般財団法人大日本蚕糸会

会 頭

殿

都・県名：

農協名：

担当者名：

担当者連絡先：

1 申請農家の掃立量の集計（実績）

（1箱20,000粒換算）

養蚕農家氏名	飼育箱数			
	〇〇年度実績	〇〇年度実績	〇〇年度実績	比較増減
1				
2				
3				
4				
5				
計				

2 養蚕ヘルパーに係る集計（実績）

養蚕農家氏名	養蚕ヘルパー雇用助成		助成額（円）	備考
	雇用人数	雇用延日数		
1				
2				
3				
4				
5				
計				

注）農協単位でとりまとめて下さい。

平成 年 月 日

上記養蚕農家の繭生産状況について、確認しました

農協名： 印

担当者名： 印

(備 考) 補助金振込先明細

金融機関・支店名	預金種別	口座番号	口座名(フリガナ)

預金通帳の写しを添付してください。

平成 年度条件整備事業（ 関係支援事業 ）実績報告書

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会

会 頭 殿

事業実施主体

（蚕種製造業者、養蚕農家、生糸製造業者等）

住 所

名 称

代表者

印

平成 年度条件整備事業（ 関係支援事業 ）を実施したので、蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第6の規定に基づき、下記のとおりその実績を報告します。

なお、併せて補助金額（精算額） 円の交付を請求します。

記

1 事業の内容

（1）機械・施設整備等の内容

単位：円

整備内容	機械・施設整備の内容 （構造・規模能力等） 桑園造成・改植等の内容	員数	単価	事業費	整備時期	備 考
計						

（2）事業効果等

(3) 実証(設置)場所等

2 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に要 した経費	負 担 区 分(円)			備 考
		大日本蚕糸会 補助金	その他補助金	事業実施主体 負担金	
条件整備事業 関係支援事業					
計					

3 収支決算

(1) 収入の部

単位：円

区 分	決 算 額	予 算 額	比 較 増 減	備 考
大日本蚕糸会補助金 その他				
合計				

(2) 支出の部

単位：円

区 分	決 算 額	予 算 額	比 較 増 減	備 考
条件整備事業 関係支援事業				
その他				
計				

4 事務担当者名及び連絡先(電話、FAX、eメールアドレス)

5 添付書類

- (1) 補助金に係る事業明細と当該領収書の写し
- (2) 事業で導入した機械施設等の写真等
- (3) 別紙様式第6号の事業完了確認調書
- (4) 大日本蚕糸会が必要と認めるもの

平成 年度繭生産緊急体制強化事業（新規養蚕参入者支援事業（個人））実績報告書

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

事業実施主体
住 所
氏 名 印

蚕糸絹文化活性化推進事業（繭生産緊急体制強化事業：新規養蚕参入者支援事業（個人））を実施した
たので、蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第6に基づき、下記のとおりその実績を報告致します。
なお、併せて補助金額（精算額） 円の交付を請求します。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

(1) 新規就農者の概要

氏 名	年 齢	現在（又は直近）の職業	両親の職業 (何れかに○を付してください。)	
			農業者	その他

(2) 研修実績

区分	研 修 蚕 期				
	春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期
時期	月 日 ~ 月 日	月 日 ~ 月 日	月 日 ~ 月 日	月 日 ~ 月 日	月 日 ~ 月 日
主な研修内容					

(3) 研修生受入農家

研修生受入農家

研修受入先農家氏名	年齢	研修生と の間柄	住所
(指導者名)			

研修生受入農家の蚕期別繭生産数量の実績

	春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期	計
掃立卵量（箱）						
繭生産数量（Kg）						

3 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に要した経費	負 担 区 分（円）		備 考
		大日本蚕糸会補助金	事業実施主体負担金	
1 新規養蚕参入者支援事業 研修生助成 研修生受入農家助成 桑園、蚕室借入助成				
2 条件整備事業				
計				

○ 条件整備事業を実施した場合（桑園・機械・施設等整備を実施した場合）の整備内容

単位：

円

整備内容	機械・施設整備の内容 （構造・規模能力等） 桑園造成・改植等の内容	員数	単価	事業費	整備時期	備 考
計						

4 事業効果等

5 事務担当者氏名、住所及び連絡先（電話、FAX、eメールアドレス）

6 添付書類

- (1)(別紙1)研修状況報告(研修生)
- (2)(別紙2)研修状況報告(研修受入農家)
- (3)条件整備事業を実施した場合
整備内容に係る事業明細と当該領収書の写し
事業で導入した機械施設等の写真等
別紙様式第6号の事業完了確認調書
- (4)大日本蚕糸会が必要と認めるもの

(備考)補助金振込先明細

金融機関・支店名	預金種別	口座番号	口座名(フリガナ)
(研修生)			
(研修生受入農家)			

預金通帳の写しを添付してください。

(別紙1) 研修状況報告(研修 年目・研修開始 年 月)

研修生氏名:

住所:

研修状況を報告します。

1 研修実施状況

研修事項・内容	習得度	特記事項
例 桑園管理(仕立法、収穫法) 飼育管理(飼育回数、給餌時期、 給餌量、生育揃え) 上蔭管理(熟蚕揃え、上蔭時期、 温湿度管理) 関係施設の環境整備・消毒		

2 就農に向けた今後の課題・必要と感じた技術

例 養蚕作業の効率化(省力化、機械化など)のための改善 養蚕従事者の要員確保 など

3 就農に向けた準備状況

例 健全養蚕経営に向けて、必要とする養蚕経営規模(桑園、蚕室、飼育規模、施設整備、複合作目)、経営目標設定、改善点など
--

(別紙2) 研修状況報告(研修 年目・研修開始 年 月)

研修受入農家氏名:

住所:

研修状況を報告します。

1 研修実施時期・指導内容(養蚕関係)

	研修時期				
	月~ 月	月~ 月	月~ 月	月~ 月	月~ 月
	指導日数				
指導内容					

2 研修実施時期・指導内容(養蚕関係以外)

	研修時期				
	月~ 月	月~ 月	月~ 月	月~ 月	月~ 月
	指導日数				
指導内容					

3 指導を終えての評価・意見

--

平成 年度繭生産緊急体制強化事業（新規養蚕参入者支援事業（法人））実績報告書

番 号
年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 殿

事業実施主体
住 所
名 称
代表者 印

蚕糸絹文化活性化推進事業（繭生産緊急体制強化事業：新規養蚕参入者支援事業（法人））を実施した
たので、蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第6の規定に基づき、下記のとおりその実績を報告します。

なお、併せて補助金額（精算額） 円の交付を請求します。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

(1) 新規事業者の概要

新規事業者の養蚕関係従事者

氏名（養蚕関係従事者）	年齢	主な従事内容

蚕期別繭生産数量

	春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期	計
掃立卵量（箱）						
繭生産数量（Kg）						

(2) 研修生の雇用助成

研修生の概要

氏名	年齢	研修生の雇用者

研修実績

区分	研 修 蚕 期				
	春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期
時期	月 日 ~ 月 日	月 日 ~ 月 日	月 日 ~ 月 日	月 日 ~ 月 日	月 日 ~ 月 日
主な研修内容					

(3) 研修生受入農家

研修受入先農家氏名 (指導者名)	年齢	研修生と の間柄	住所

研修生受入農家の蚕期別繭生産数量の実績

	春蚕期	夏蚕期	初秋蚕期	晩秋蚕期	晩々秋蚕期	計
掃立卵量(箱)						
繭生産数量(Kg)						

3 事業費の内容及び経費の配分

区 分	事業に要 した経費	負 担 区 分(円)		備 考
		大日本蚕糸会 補助金	事業実施主体 負担金	
1 新規養蚕参入者支援事業 養蚕研修生の雇用助成 研修生受入農家助成 桑園・蚕室借入助成				
2 条件整備事業				
計				

○ 条件整備事業を実施した場合（桑園・機械・施設等整備を実施した場合）の整備内容

単位：

円

整備内容	機械・施設整備の内容 (構造・規模能力等) 桑園造成・改植等の内容	員数	単価	事業費	整備時期	備考
計						

4 事業効果等

5 事務担当者氏名、住所及び連絡先（電話、FAX、eメールアドレス）

6 添付書類

- (1)(別紙1)研修状況報告(研修生)
- (2)(別紙2)研修状況報告(研修受入農家)
- (3)条件整備事業を実施した場合
 整備内容に係る事業明細と当該領収書の写し
 事業で導入した機械施設等の写真等
 別紙様式第6号の事業完了確認調書
- (4)大日本蚕糸会が必要と認めるもの

(備考)補助金振込先明細

金融機関・支店名	預金種別	口座番号	口座名(フリガナ)
(事業者)			
(研修生受入農家)			

預金通帳の写しを添付してください。

(別紙1) 研修状況報告(研修 年目・研修開始 年 月)

研修生氏名:

住所:

研修状況を報告します。

1 研修実施状況

研修事項・内容	習得度	特記事項
例 桑園管理(仕立法、収穫法) 飼育管理(飼育回数、給餌時期、 給餌量、生育揃え) 上蔭管理(熟蚕揃え、上蔭時期、 温湿度管理) 関係施設の環境整備・消毒		

2 就農に向けた今後の課題・必要と感じた技術

例 養蚕作業の効率化(省力化、機械化など)のための改善 養蚕従事者の要員確保 など

3 就農に向けた準備状況

例 健全養蚕経営に向けて、必要とする養蚕経営規模(桑園、蚕室、飼育規模、施設整備、複合作目)、経営目標設定、改善点など
--

(別紙2) 研修状況報告(研修 年目・研修開始 年 月)

研修受入農家氏名:

住所:

研修状況を報告します。

1 研修実施時期・指導内容(養蚕関係)

	研修時期				
	月~ 月	月~ 月	月~ 月	月~ 月	月~ 月
	指導日数				
指導内容					

2 研修実施時期・指導内容(養蚕関係以外)

	研修時期				
	月~ 月	月~ 月	月~ 月	月~ 月	月~ 月
	指導日数				
指導内容					

3 指導を終えての評価・意見

--

別紙様式第5号

平成 年度 事業(事業)完了確認調書
 (機械・施設等のハード事業を実施した場合：実施要領第6関係)

1 総括

事業名				事業実施主体	
事業内容				事業実施場所	
事業設計業者 住所 氏名				事業施工業者 住所 氏名	
設計見積額	円			総事業費	円
大日本蚕糸会 事業承認	年 月 日 第 号	事業補助金 交付決定	年 月 日 第 号	大日本蚕糸会 補助金額	円
事業着手	年 月 日	事業実施主体 所 属 検査確認者		検査確認 所属(住所) 立会者	
事業完了	年 月 日				
完了確認	年 月 日				

2 収入支出状況

区 分	補 助 金 (円)		負 担 金 (円)		合 計 (円)
	大日本蚕糸会	そ の 他	事業実施主体	そ の 他	
収 入 額	収入済				
	収入予定				
	計				
支 出 額	支出済				
	支出予定				
	計				

(注)補助金のうち、大日本蚕糸会の前金払等がある場合は、収入済欄及び支出済欄にその額を記入する。

3 検査の結果概要

検査の状況：

指示、特記事項：

上記のとおり事業が完了したことを確認いたしました。

年 月 日

県推進協議会等名
所 属
検査確認者

印

別紙様式第6号

平成 年度 事業(事業)実施状況報告書
 (機械・施設等のハード事業を実施した場合：実施要領第9関係)

番 号
 年 月 日

一般財団法人大日本蚕糸会

会 頭 殿

事業実施主体

名 称

住 所

代表者

印

事業(事業)の実施状況について、蚕糸絹文化振興対策事業実施要領第9の規定に基づき、報告いたします。

記

事業完了年度	年度
事業報告年度	年度(年目)

事業名	総事業費	大日本蚕糸会補助金
(事業名)		

1 事業内容及び事業の必要性

事業内容	事業の必要性

2 事業実施後の状況(実施した事業に関連する項目・品目について記入する。)

	事業完了年度 (年度)	1年目 (年度)	2年目 (年度)	3年目 (年度)
導入した施設・機械の利用状況 生産数量(繭、生糸、絹製品等) 品質等 販売数量(繭、生糸、絹製品等) その他参考事項				

単位を記述してください

3 事業の効果及び改善策

報告年	事業の効果	改善策(必要がある場合)
(年度)		
(年度)		
(年度)		